

欠席委員意見要旨

【高橋委員】

- 競技力向上に向けては、あいちトップアスリートアカデミーの着実な取組を期待したい。また、この取組で成果を得るためには、県と各競技団体、そして民間のスポーツクラブ等の連携が不可欠であると思う。
- また、あいちトップアスリートアカデミーについて、進捗管理目標に「選考会への参加者数」を掲げているが、競技人口の裾野を広げていく上では非常に重要であると思う。増加し続けることは難しいため、可能な限り参加者数を維持できるよう取り組んでいただきたい。その点、他県の取組を見ると、比較的年齢が低い層からも参加者を募集している団体もある。取組が早いほど効果もあると思うため、募集する年齢の幅を広げることも検討の余地があるかもしれない。
- 以前発言した、競技団体における大会運営能力の視点に関して、「国際・上級審判員や公認クラシファイヤー等の競技運営人材の強化育成に取り組む団体数」という指標を盛り込んでいただき感謝申し上げます。審判員の高齢化が進む競技団体が多く、数年先にはアジア競技大会・アジアパラ競技大会という目標もあるため、愛知県にとっては喫緊の課題であると思う。また、審判員を含めた競技役員数は部活動数に比例しているため、今後地域移行が進むと、こうした人材も減ってしまうのではないかと危惧している。
- 国際・上級審判員の確保に向けては、新たな人材を集めることも必要であると思うが、例えば国内資格を持つ層に対してアプローチし、資格をランクアップするよう支援する取組も重要であり、成果が早く得られるのではないか。
- 指導者の確保についても重要な視点。専門としている水泳でも非常に苦労している。そのため、(公財)日本水泳連盟が大学課程の中で指導者資格が取得できるという取組を行っており、本学でも来年度からこの取組に参画することとなっている。各競技団体の協力があるからこそこの取組であると思うが、指導者の確保に向けてはこうした取組が広がっていけば良いと思う。

【寺田委員】

- 進捗管理目標に掲げられた「障害者スポーツ参加促進事業の参加人数」について、当事業には講師として携わっているが、実感として参加者は一定数確保できているものの、新たな参加者は少ないのではないかと感じている。リピーターの増加を図ることも重要であり、継続的なスポーツの実施につながるものと認識しているが、やはり初めて参加する方を増やしていく努力も重要であると思う。
- 障害のある方のスポーツへの参加促進に向けては、イベント等の開催もきっかけづくりとして有効とは思いますが、イベント会場までのアクセスが難しく、参加が困難である方も多いようだ。そのため、地域に密着した、自宅からアクセスしやすい場所でスポーツのきっかけを創出していく取組が重要となると思う。その点、数値目標の中に「総合型地域スポーツクラブで実施する障害者スポーツクラブの参加者数」を掲げているが、こうした取組を着実に進めていただきたい。
- また、競技スポーツのみがスポーツではなく、レクリエーションや“ゆるスポーツ”も含めて身体を動かすことがスポーツであるという、スポーツの多様性や楽しさ、喜びを発信し、多くの方に理解していただくことも重要である。そのためには、やはり幼少期からスポーツを楽しんでいると感じてもらえるよう、働きかけていくことが重要。幼保小の連携など、教員の役割は大きいと思うが、保護者の理解も不可欠であると思うため、保護者に対するアプローチも必要となる。
- 「あいちパラスポーツサポーター」については、「ささえる人材」の確保に向けて一人でも多く養成していただきたい。支援する上では、決して高度な指導技術は必要ではなく、誰でも、様々な側面から力になることができると思う。また、身近な支援者が増えていくことにより、障害のある方のスポーツ機会も増えていくと思う。
- 次期計画の推進に向けては、今回掲げられた数値目標の達成に向けて各事業を着実に進めることはもちろん重要であるが、常に新たな課題に目を配り、その解決に向かっているかに取り組んでいくのかといった視点にも期待したい。

【淀川委員】

- 子どものスポーツ活動の充実について、学校部活動が今回の計画においてトピックの一つとなっていると思うが、校区の中学校には野球部がなく、生徒の選択肢が狭くなっていると聞く。今後子どもが減少していく中では、部活動数を維持することはなかなか難しいかも知れないが、学校と地域との連携の中で、生徒の選択肢や可能性が増えていくことを期待したい。

- この点、数値目標として「県内総合型地域スポーツクラブの新規加入会員数」が盛り込まれているが、こうした取組の推進が必要であると思う。

- また、子どもが部活動を通して充実した時間を過ごすためには、意欲や能力のある指導者が必要であると思うため、「運動部活動における外部指導者の活用数」についても、しっかりと進めていくべき指標であると思う。

- スポーツをするか、しないかは個人の自由だとは思いますが、スポーツには本当に多くの効果や役割があると思う。スポーツを続けることで、地域でのつながりが広がったり、健康維持につながったり、何より続けることが生きがいとなっている。多くの方がスポーツを続けてほしいと思うし、スポーツを通じて楽しい時間を過ごしてほしいと思っている。

- そのために何が必要かと考えると、やはり幼少期から“スポーツが好き”“スポーツをしたい”と感じ、スポーツに親しみ、身体を動かすことを習慣としていくことであると思う。その実現に向けた、行政や学校、地域、家庭など、多くの主体を巻き込んだ取組を期待したい。